



# 「責任ある養殖」の普及に向けた 企業の役割

WWFジャパン  
海洋水産グループ  
三沢 行弘

1. 水産関連企業の社会的責任
2. 養殖業の課題とASC認証
3. 養殖業改善プロジェクト(AIP)

# 1. 水産関連企業の社会的責任

# 水産関連企業の社会的責任

- 国際的な法規制の強化
  - EUのIUU(違法・無報告・無規制)漁業規則(2010年-)
  - 米国でSIMP(水産物輸入管理制度)実施(2018年1月)
- サプライチェーンでの強制労働問題顕在化
  - タイでのエビ養殖の飼料漁獲の一連の報道等
- 持続可能な水産物への消費者意識
  - 43%の日本の消費者が海洋環境保全のために持続可能な水産物を購入する意向(グローバルでは72%)\*

\*出所: MSC GlobeScan Consumer Insights 2016

水産物取扱企業に求められる社会的責任は高まっていく

## 2. 養殖業の課題とASC認証

# 脅かされる海の生物多様性

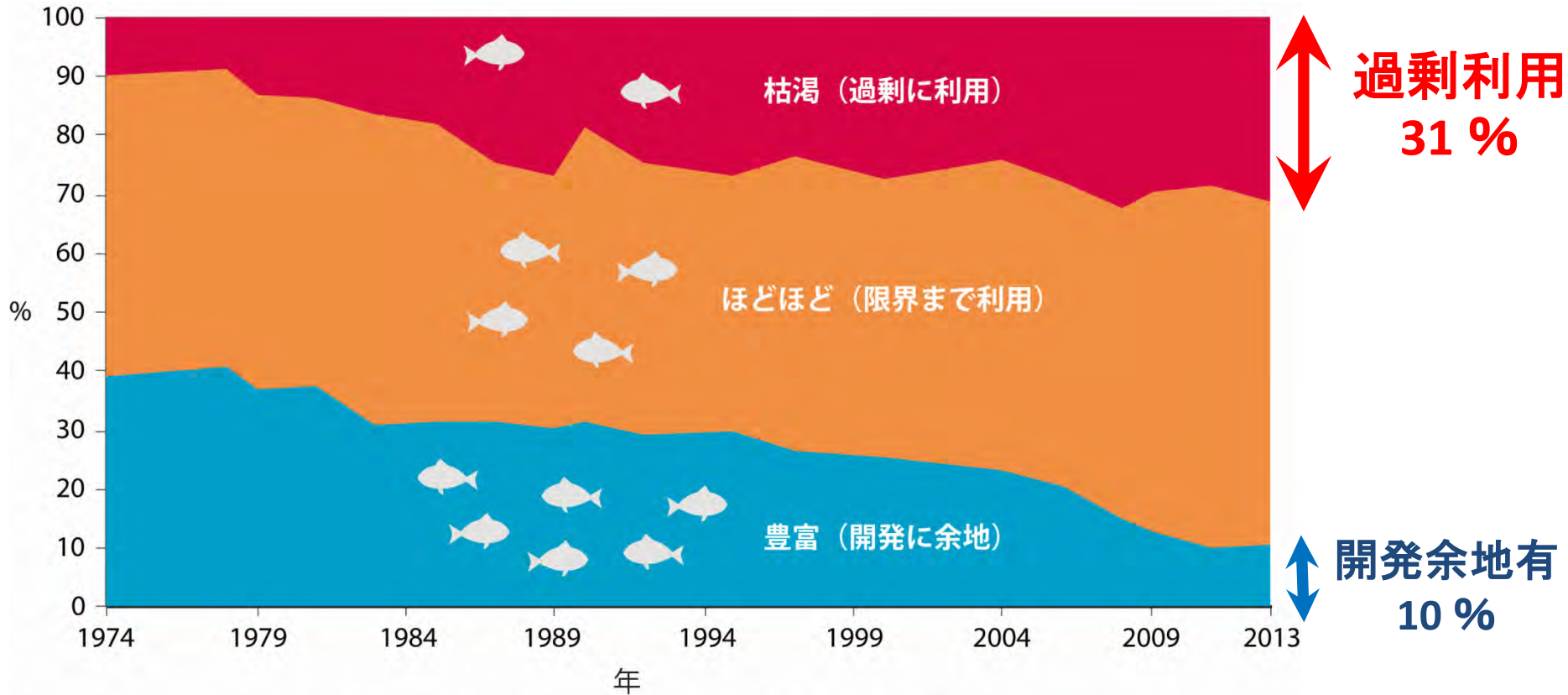
## 地球の生物多様性を脅かす主要因

代表的景観	原因	生息地の 改変	地球温暖化	外来生物	過剰な 資源利用	汚染
熱帯林		↑	↑	↑	↗	↑
淡水域		↑	↑	↑	→	↑
海洋		↑	↑	→	↗	↑
極地		↗	↑	→	↗	↑
20世紀中の悪影響		弱い	ほどほど	強い	非常に強い	
現在の影響の傾向		そのまま	増加	急増		

出所：UNEP(国連環境計画)ミレニアム生態系評価

海の生物多様性への脅威は増加しつつある

# 開発余地の少ない漁業資源



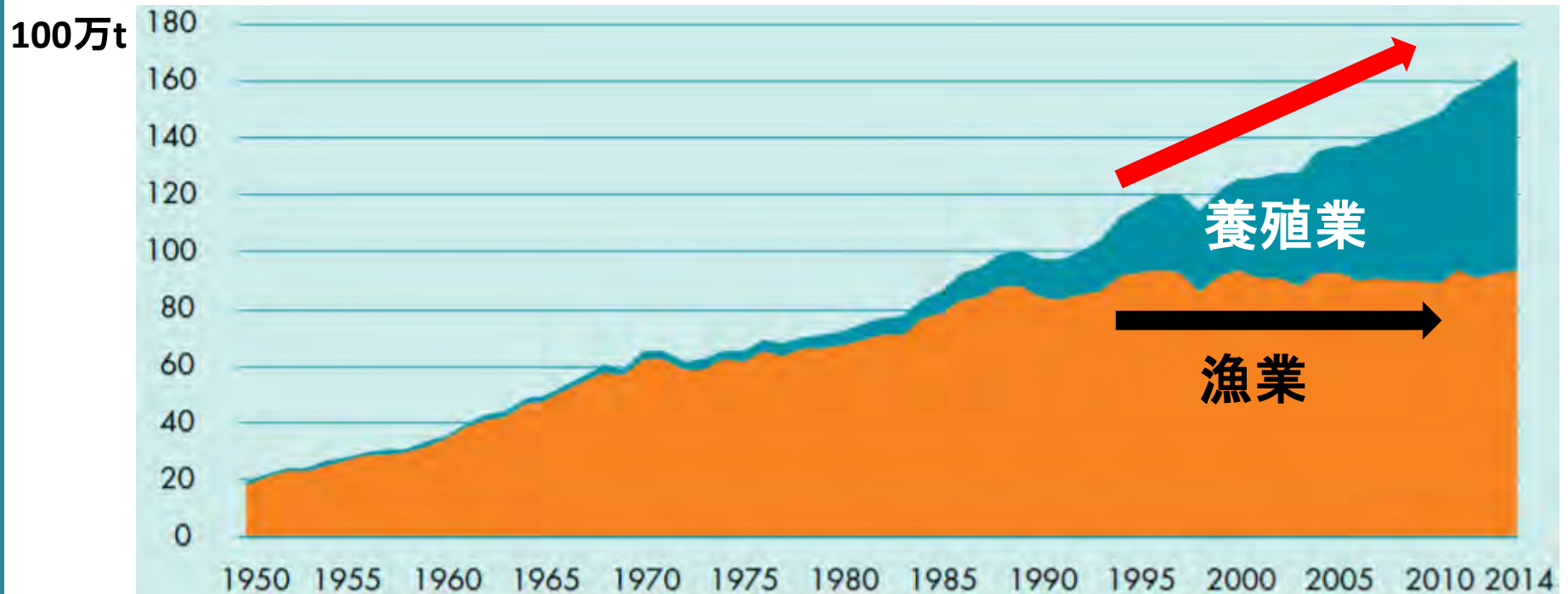
世界の水産資源ストックのグローバルトレンド 1974-2013年

(FAO. 2016. The State of World Fisheries and Aquaculture. Fig.13をもとに作成)

**開発の余地がある漁業資源は1割しか残っていない**

# 養殖業の世界的な急拡大

世界の天然漁業と養殖業の生産量推移



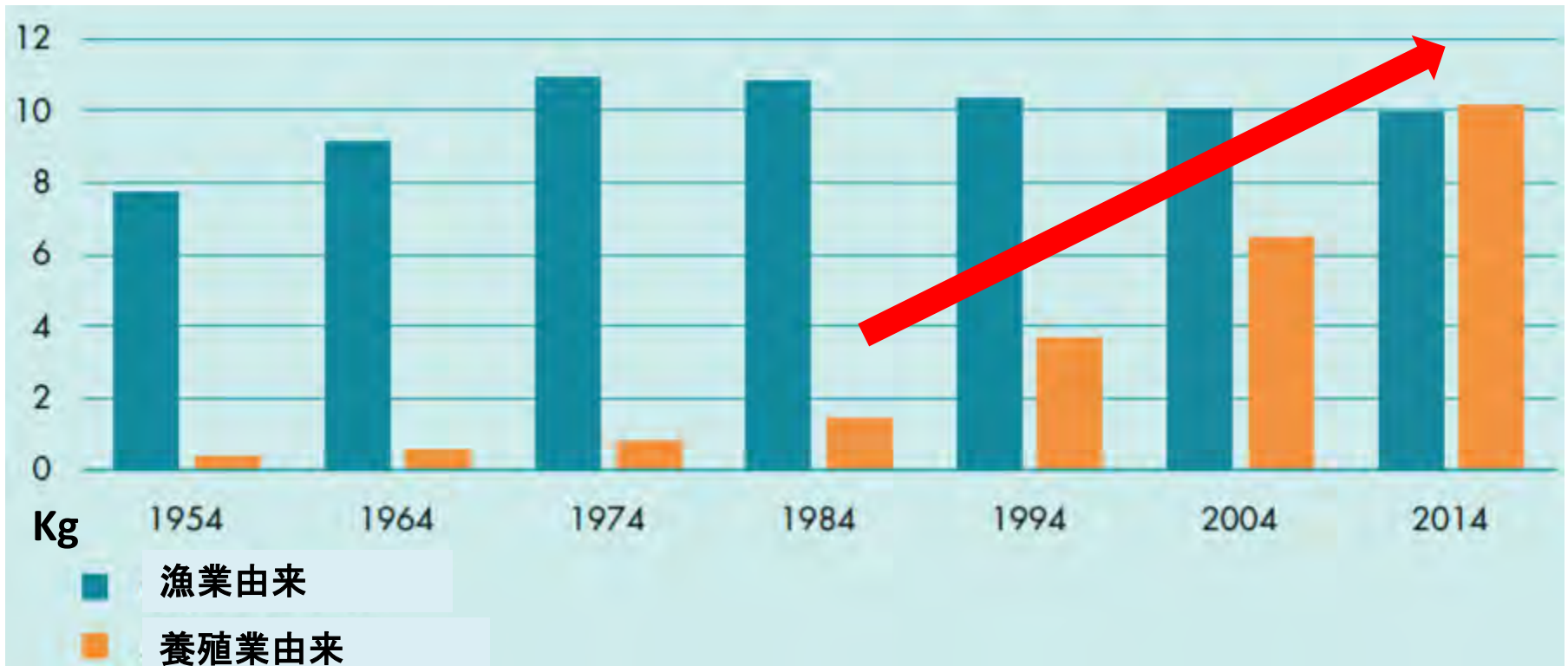
出所: FAO, The State of World Fisheries and Aquaculture 2016

頭打ちの漁業に対し、養殖業生産が急拡大



# 魚食における養殖業の重要性増大

## 1人当たりの年間水産物消費の推移

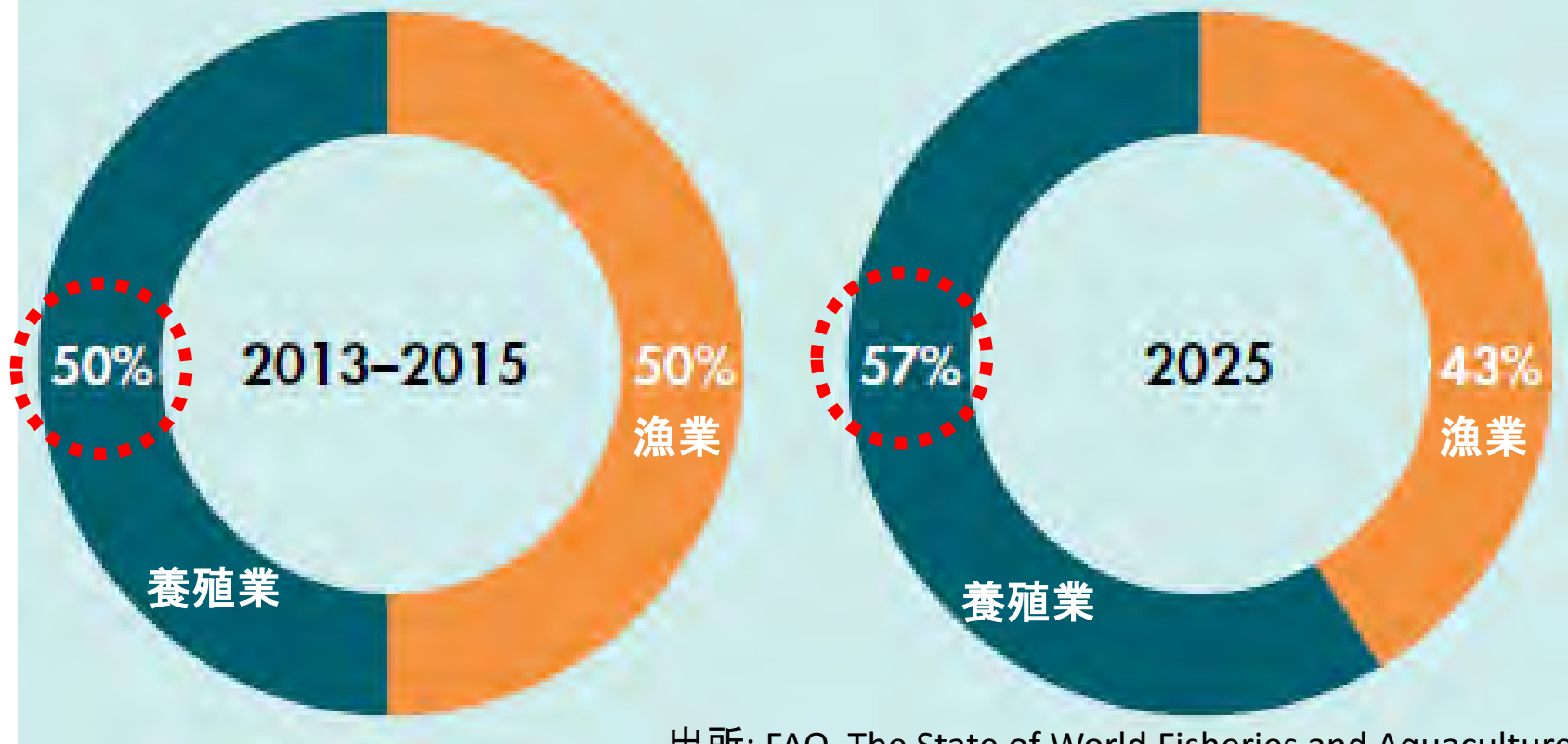


出所: FAO, The State of World Fisheries and Aquaculture 2016

私たちの食べる魚の半分は養殖魚

# 養殖業のシェアは今後も増大していく

水産物消費における漁業・養殖業の占める割合の予測



出所: FAO, The State of World Fisheries and Aquaculture 2016

**57%の水産物消費が養殖由来となる見込み(2025年)**

# 養殖業における課題

- 養殖への転換による周辺環境の破壊
  - 例)水質汚染、マングローブ林伐採
- 逃げ出した外来種の養殖魚が野生化
- 抗生物質・化学物質使用による影響
- エサとして使用される原料の持続可能性
- 社会・労働問題への対応
  - 途上国における強制労働が社会問題化

**養殖業の拡大により課題解決の重要性も高まる**

# 課題解決手段としてのASC認証

## <ASC認証>

環境と社会の問題に責任をもって取り組みながら育てられた養殖水産物への認証

1. 養殖場周辺の環境や野生生物に悪影響を与えていないこと
2. 餌や薬品の使用が定められた量以下であること
3. 養殖場で働く人の人権を守り地域と連携していること

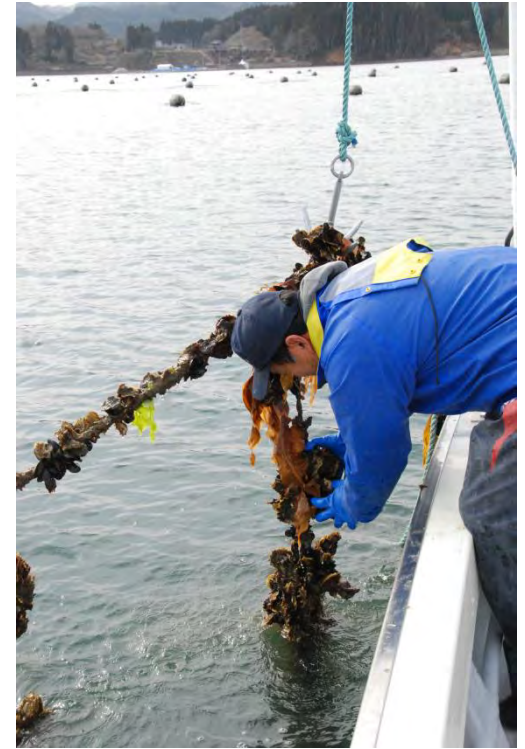


など7つの原則を満たした養殖業で育てられた水産物のみにも与えられる養殖版「海のエコラベル」

**第三者が認証することで「責任ある養殖」を担保**

# ASC認証の現状

- 世界で520か所の養殖場で認証を取得
- 宮城県漁協 戸倉出張所のマガキ養殖が、東日本大震災で全損した養殖施設を再建し、2016年3月日本初のASC認証を取得。
- 日本企業が支援したインドネシアのエビ養殖が、今年8月に同国初のブラックタイガーエビのASC認証を取得。
- 日本国内の認証製品数は約250件



**認証養殖業、認証取扱製品は増加傾向**

# ASC認証制度の課題

特に国内外の零細養殖業、途上国の養殖業において

- 養殖業の現状への課題認識が不十分
- ASC認証についての理解が不足
- ASC認証取得・維持にかかる追加コストの負担が困難
- 認証取得・維持に必要な人材・ノウハウ・情報の不足
- 認証を取得したとして販売先を確保できるか不安



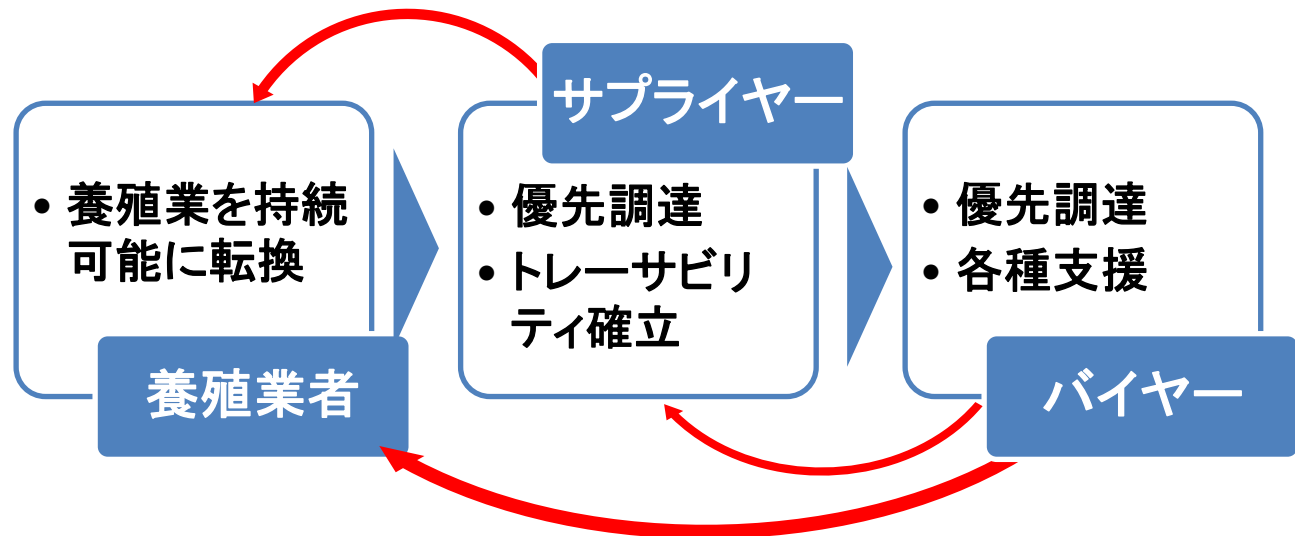
ASC認証を取得するのが困難なケースがある

### 3. 養殖業改善プロジェクト(AIP)

# AIP(養殖業改善プロジェクト)

AIP: Aquaculture Improvement Project

- 養殖業における環境・社会の課題に取り組む  
多様なステークホルダーによる活動
- サプライチェーンの力を活用することで持続可能な養殖業への転換に向けた変化を推進



持続可能な養殖の実現に向けた参加型プロジェクト



# 企業への期待

## ＜養殖業者の課題＞

- AIP製品の長期的な買い付け保証がほしい
- 養殖業者のAIPへの理解やインセンティブが不足



## ＜サプライチェーン構成企業への期待＞

養殖業者・サプライヤーに対し:

- AIP導入を働きかけること
- AIP製品の長期的な調達を確約すること
- 持続可能性の向上にかかる費用分を考慮した買い付け
- AIPへの参加(金銭的・人的支援)

# AIP導入のベネフィット

## <養殖業者>

- 長期的な販路の確保
- 人的・金銭的リソースや情報の獲得
- 事業の継続性の確保(環境・労働面)
- 政策面での支援を受けられる可能性

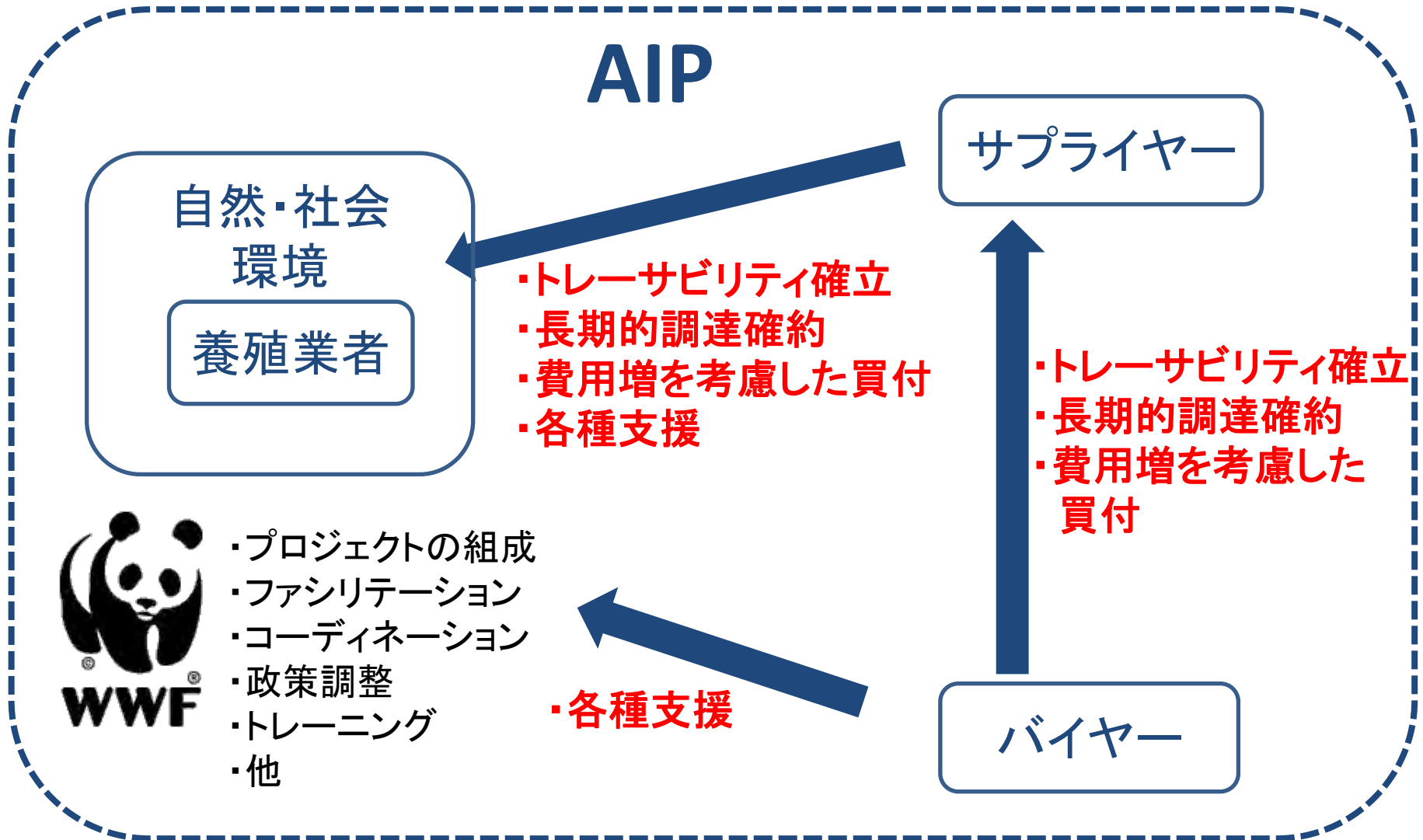
## <サプライチェーン構成企業>

- 将来的な持続可能な調達先の確保
- 社会的リスクの回避
- 社会・自然環境改善への貢献

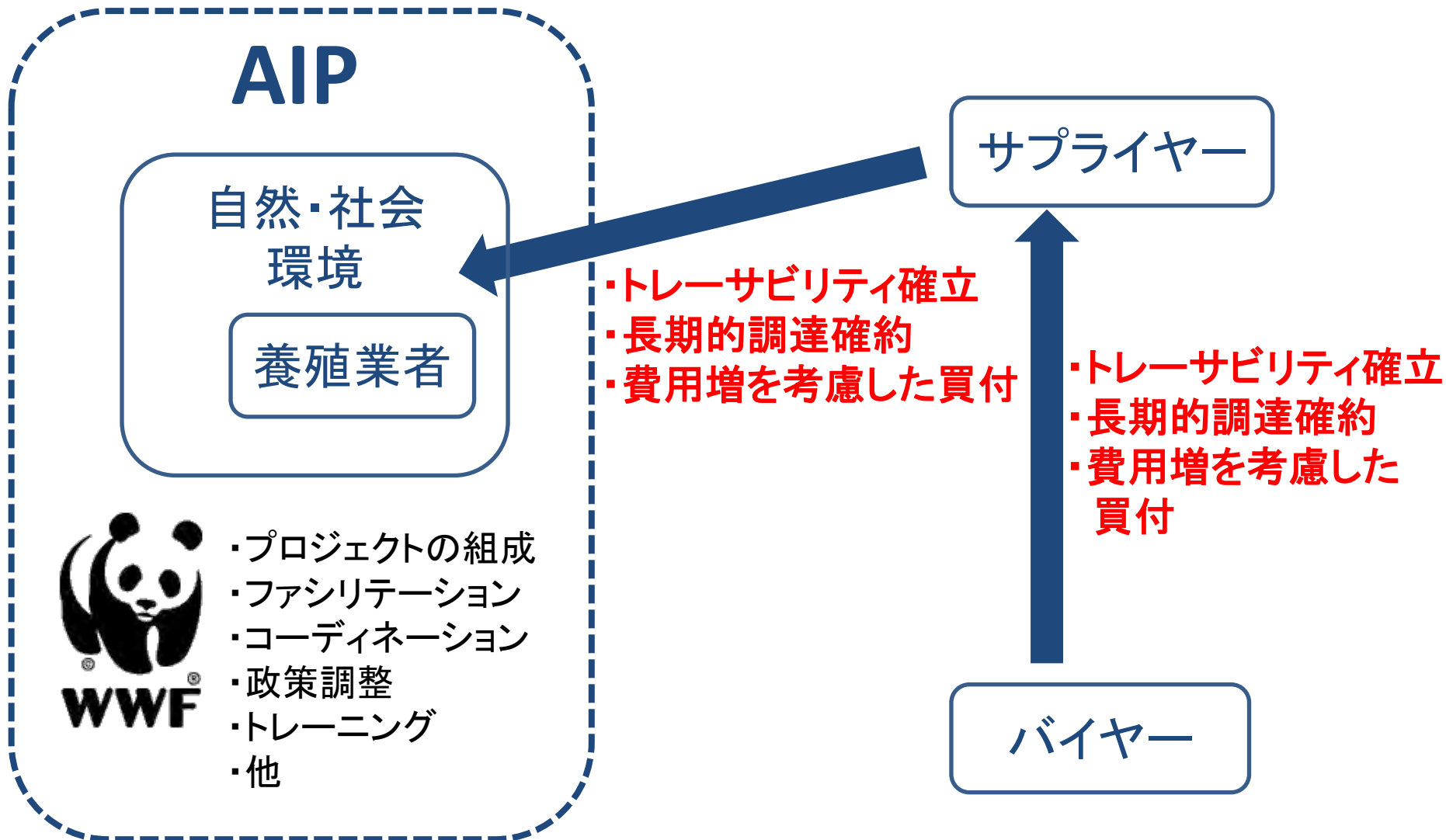
# AIPの主要条件

- ステークホルダーの協力
  - バイヤー等マーケットの力の活用(企業の協力が不可欠)
- 対外的なコミットメント
  - 参加者は、改善に投資することを約束する
- 目標設定・・・開始5年以内に全てのASC認証基準を満たす
  - 期限付き目標設定と活動範囲の特定を行う
- ワークプラン(事業計画)
  - ワークプランを作成し実行する
- 進捗のトラッキングと報告
  - 定期的なトラッキングをし、対外的な進捗報告を行う

# 参画イメージ(AIP参加のケース)



# 参画イメージ(AIP調達のケース)



世界の食を支えるため養殖業の重要性が高まるにつれて、持続可能な養殖業の推進が、これまで以上に求められています。

ステークホルダーの皆様には、ASC認証魚の優先調達や、ASC認証に向けた養殖業改善プロジェクト「AIP」への貢献が期待されています。